



東北大学グローバルCOE

Network Medicine

創生拠点

大学院セミナー

# 西山 正章 先生

(九州大学 生体防御医学研究所・助教)

発生過程におけるアポトーシスの新しい制御機構：クロマチンリモデリングによるp53のエピジェネティックコントロール

2010年1月27日(水) 16時-17時  
医学部5号館2階 201号室

p53活性化の古典的なモデルは、p53安定化の段階とそれにひき続くDNA結合、標的遺伝子の転写活性化を誘導する複雑な制御ネットワークから構成されている。これらの段階はすべてp53の翻訳後修飾によって制御されていると信じられてきた。しかしながら最近の研究では、p53による転写制御はクロマチンレベルでも調節されていることが明らかになってきている。今回われわれは、発生初期にはp53が恒常的に抑制されており、それがクロマチンリモデリング因子CHD8を介したヒストンH1のリクルートによるものであることを明らかにした。これは今までわかっていなかった新しいp53機能の調節機構である。

## 参考文献

1. Nishiyama M, Oshikawa K, Tsukada Y, Nakagawa T, Iemura S, Natsume T, Fan Y, Kikuchi A, Skoultchi AI, Nakayama KI. CHD8 suppresses p53-mediated apoptosis through histone H1 recruitment during early embryogenesis. *Nat Cell Biol.* 11: 172-82(2009).
2. Nishiyama M, Nakayama K, Tsunematsu R, Tsukiyama T, Kikuchi A, Nakayama KI. Early embryonic death in mice lacking the beta-catenin-binding protein Duplin. *Mol Cell Biol.* 24: 8386-94 (2004).

本セミナーは医学履修課程特別セミナー等を兼ねています。受講学生は履修簿を持参し、セミナー修了後にサインを受けること。聴講は自由大歓迎です。学部生の皆さんもぜひどうぞ。

拠点リーダー 岡 芳知 / 世話人 中山 啓子

(発生分化解析分野・内線8227)